

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

2025年度全日本学生柔道優勝大会



男子の部・優勝＝日本大学



胴上げで祝福される日本大学・金野潤監督

全日本学生柔道優勝大会

6月28・29日に日本武道館で全日本学生柔道優勝大会が開催され、男子の部では日本大学が名門・天理大学を下し、28年ぶり6度目の優勝を果たした。

※詳細は今月のニュース(120ページ)をご覧ください。

日大28年ぶりの栄冠

2025年度全日本学生柔道優勝大会

日本大学が28年ぶりの優勝



男子決勝・三将戦＝日本大・濱田（下）が一本背負投で技ありを獲得

2025年度全日本学生柔道優勝大会（男子74回・女子34回）が6月28・29日に日本武道館で開催された。

男子（7人制）は、日本大学が天理大学との熱戦を制し、28年ぶりの優勝に輝いた。女子一部（5人制）は、環太平洋大学が2年ぶり4度目の優勝を果たし、王座奪還。女子二部（3人制）は桐蔭横浜大学が初優勝を果たした。

男子（7人制・62チーム出場）

◇決勝

日本大 3-1 天理大

先鋒 オスバヤル 引分 後藤達人
次鋒 太田隆介 引分 新田朋哉
五将 村瀬浩樹○隅落 竹内泰介
中堅 濱崎龍真 引分 平見陸
三将 濱田哲太○一斉負投 山村洸斗
副将 庄司陸吾 内股○平野匠啓
大将 三崎大和○合技 向井球真

先鋒戦は身長200cm・体重130kgの日本大・ペレンレイジャイムツオスホバヤルと、身長181cm・体重100kgの天理大・後藤達人の顔合わせ。試合は開始2分ほどでオスホバヤルが指導



男子決勝・五将戦＝日本大・村瀬（左）が
隅落で技ありを奪う

2となる。その後は前に出るオスホ
バヤルを後藤が上手く捌きつつ、両
者機をうかがうも、ポイントは動か
ず試合終了。先鋒戦は引分となった。
続く次鋒戦も引分でむかえた五将
戦。日本大・村瀬浩樹と天理大・竹
内泰介の一戦は、試合時間2分40
秒、お互いが技を同時にかけると村
瀬の技がタイミングよく決まり、隅
落で技ありを奪い、そのまま試合終
了。日本大が貴重な1勝を挙げる。

中堅戦、日本大・濱崎龍真と天理
大・平見陸の両校の主将同士の対

戦。平見はなんとかポイントを取り
たい状況で攻め続けるも決め手に欠
き、引分に終わる。

続いて日本大・濱田哲太と天理大
・山村洗斗の三将戦。試合開始1分
13秒、濱田が一本背負投で技ありを
獲得。その後も一本背負投を狙い続
け、攻めの姿勢を崩さない濱田と、
巻き返しを図りたい山村の白熱した
試合展開に。勝負が決したのは開始
3分41秒。濱田が見事な一本背負投
で一本勝ち。日本大が優勝への大き
な2勝目を掴み取った。

天理大は最低でも技あり以上で勝
たなければ優勝を逃す厳しい状況に
追い込まれてむかえた副将戦。日本
大・庄司陸吾と、天理大・平野匠啓
の対戦。準決勝でチームを決勝へと
導く一本勝ちを収めた平野は、勢い
そのままに序盤から果敢に技を出し
続ける。一方の庄司はなかなか前に
出て技をかけることができず、試合
中盤で既に指導2となる。そして試
合時間2分35秒、平野が内股で起死
回生の一本勝ち。負けられない試合
で値千金の一本勝ちを収め、大將戦
に望みを繋いだ。

大將戦は、日本大・三崎大和と、

天理大・向井球真の一戦。日本大は
引分以上で優勝、天理大は一本勝ち
で逆転優勝となる。試合開始2分、
三崎が向井を担ぎ上げて倒し、大腰
で技ありを奪う。後がない向井は氣
迫溢れる攻めを続け、残り時間31秒
と27秒にそれぞれ有効と技ありを奪
取。そしてむかえた試合時間残り6
秒、前に出てきた向井を三崎が冷静
に対処し、一本背負投を決めて試合
終了。日本大が28年ぶり6度目の優
勝を果たした。

優勝Ⅱ日本大学・金野潤監督



「最高の選手たちに恵まれて本当に
幸せです。選手にも関係者にも感謝
です。最後まで厳しい試合になると
思っていましたし、まさにその通り
になったと思います。選手たちがし
っかりそれぞれの役割を果たしてく
れました」

優勝Ⅱ日本大学・三崎大和選手



「毎日きつい練習をしてきて、なか
な結果がでなかったですが、今回
優勝して金野先生を日本一にするこ
とができて嬉しいです」

■女子一部（5人制・35チーム出場）

◇決勝

環太平洋大 2-1 明治国際医療大
 先鋒 荒川清楓 引分 竹原妃菜
 次鋒 山下明純 引分 山本 空
 中堅 前田 凜○合技 西森奈花
 副将 石岡来望 小外掛○高木水月
 大将 椋木美希○小外刈 川口鈴王

決勝は前回準優勝で王座奪還に燃える環太平洋大と、準決勝で前回覇者の東海大を下した明治国際医療大の対戦となった。

先鋒、次鋒戦ともに引分で中堅戦へ。環太平洋大・前田凜と、明治国際医療大・西森奈花の試合は、前田

が開始約30秒で支釣込足で技ありを奪うと、そのまま抑え込みに移行して横四方固で合技一本勝ち。貴重な

1勝を先取する。

副将戦は環太平洋大・石岡来望と、明治国際医療大・高木水月の一

戦。試合は残り15秒、高木が小外掛で有効を取って試合終了。勝敗は大

将戦で決する展開となった。

大将戦は環太平洋大・椋木美希と、明治国際医療大・川口鈴王の顔合わせ。序盤から椋木が前に出て技を掛け続ける。そして残り時間49

秒、椋木が鮮やかな小外刈で一本勝ち。環太平洋大が2年ぶりの優勝を果たし、王座を奪還した。



女子一部決勝・大将戦＝環太平洋大・椋木（右）が小外刈で一本勝ち



女子一部決勝・中堅戦＝環太平洋大・前田（上）が支釣込足で技ありを奪う



女子一部（5人制）優勝＝環太平洋大学



女子二部決勝・中堅戦＝桐蔭横浜大・吉田（下）が帯取返で技ありを奪う



女子二部決勝・先鋒戦＝桐蔭横浜大・相澤（上）が大内返で技ありを奪う

◆決勝

桐蔭横浜大 2-1 広島大

先鋒 相澤愛佳○合技 城 美月
中堅 吉田優奈○合技 安枝風香
大将 山本弓華 内股○今岡そら

決勝は初優勝を目指す桐蔭横浜大と、前回大会を制し、連覇を狙う広島大の組み合わせとなった。

先鋒戦、桐蔭横浜大・相澤愛佳が試合序盤に、広島大・城美月から大

内返で技ありを奪うと、そのまま袈袢で抑え込み、合技一本勝ち。初制覇に王手をかける。

桐蔭横浜大は勝てば優勝が決まる中堅戦、吉田優奈が広島大・安枝風香から帯取返で技ありを取り、横四方固で合技一本勝ち。この時点で桐蔭横浜大の初優勝が決まった。大将戦は広島大・今岡そらが前回王者の意地をみせる内股で桐蔭横浜大・山本弓華から一本を取り一矢報いる。2-1で桐蔭横浜大が初のタイトルを獲得した。

優勝＝桐蔭横浜大学・廣川充志監督

「女子柔道部は団体戦に出るのが今年度で最後になるので、最後を優勝で飾れてよかったです。3人ともしっかり仕事をした総合力での優勝だと思います。また決勝では先鋒の相澤が一本取ってくれたのが大きかったと思います」



【大会結果】

男子

▽優勝＝日本大
▽準優勝＝天理大

▽第3位＝桐蔭横浜大、明治大

女子一部

▽優勝＝環太平洋大
▽準優勝＝明治国際医療大

▽第3位＝東海大、筑波大

女子二部

▽優勝＝桐蔭横浜大

▽準優勝＝広島大

▽第3位＝同志社大、東京国際大



女子二部（3人制）優勝＝桐蔭横浜大学